



トビアス・ストーリー (3) 天使のたすけ



親切な案内人の若者はアザリアと名乗りましたが、実は天使ラファエルだったのです。でもトビアスには分かりませんでした。彼はメデアに行く道を詳しく知っていました。

二人は旅を続け、ある晩チグリス川のほとりで休みました。川で足を洗おうとした時、一匹の大きな魚が飛び上がり、トビアスの足を一飲みにしよとしました。アザリアは「捕まえなさい。しっかりと魚を捕まえて放さないように」と命じます。「それを捕まえて切り裂き、心臓や肝臓を取って置きなさい。それを悪魔や悪霊に憑りつかれている男や女の前で燻しなさい。胆のうを取って置きなさい。それを目に塗って息を吹きかけると、目は良くなる」とトビアスに教えます。

<天使ラファエルとトビアス> Verrocchio やがて、メデアに到着しました。その晩、アザリアは「今夜、親戚ラグエル家に泊まらなければなりません。ラグエルの娘サラと婚約するのです」と、いきなりトビアスに勧めるのです。思いがけない言葉でした。サラとはどんな娘でしょう。

アザリアは「この娘は、あなたの親戚筋に当たり、思慮深く、勇気があり、大変美しく、父親も素晴らしい人物です」と勧めます。



注意深いトビアスは情報を得ていました。「サラは今までに七人の男に嫁がされたが、男たちは初夜の床に入るとそのつど、死んでしまった。悪魔が彼らを殺したという噂だ。私は怖いのです。」今までアザリアに従順でしたが、トビアスは躊躇します。

Arent de Gelder 1645 - 1727 それに対してアザリアは「父の家系から妻をめとるようにと命じた父親の戒めを忘れたのですか」とトビアスを諭します。「悪魔に対しては、魚の心臓や肝臓を燻すこと。そして一緒になる前に、まず、二人で、憐れみと救いがあるように天の主の祈りなさい。」父親を敬愛するトビアスはそれを聞いて、心配が消えました。また見ぬ娘サラを深く愛するようになり、心は彼女に固く結び付けられたのです。

- ・ トビアスは天使とは知らずに、若者と意気投合し、信頼し、素直に従います。トビアスの純真な姿がヴェロッキオの絵に描かれています。ヴェロッキオの<イエスの洗礼>の絵の左端の天使がダ・ヴィンチの筆だと知られていますが、この絵のトビアスの顔も誰か他の弟子が描いたのでしょうか。実に可愛らしい顔です。
- ・ 評判の悪い、不気味な噂のあるサラを、天使は全く違うふうと言います。そして、トビアスは父の諭しに従って、「信仰」を第一として結婚を心に決めるのです。大賛成です。(私の感想)